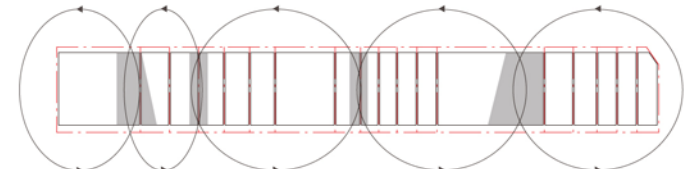
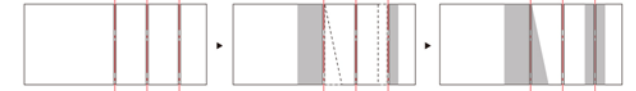
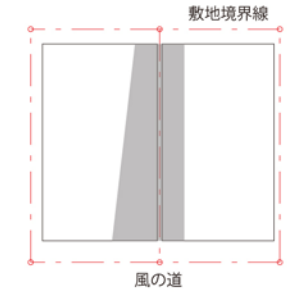
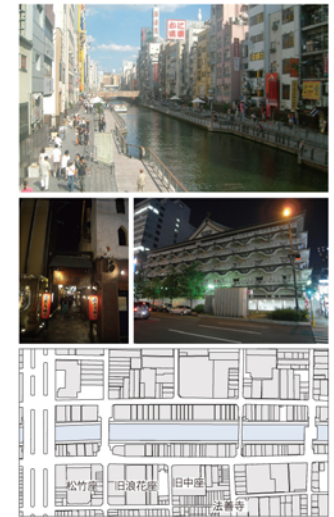


道頓堀周辺は大阪湾からの風が流れてくるにもかかわらず、川沿いの大きな壁のように建ち並ぶ建築群によって風の流が遮断されています。それぞれの敷地の間口の狭さゆえ風が抜ける隙間を作ることが困難な状態です。

横丁のような小さな空間と劇場のような大きな空間が同時に存在していることがこの界隈の魅力でもあります。

都心の商業地域ゆえ建替えが激しい場所において、建築が更新される際に**単体あるいは複数の建築群で風の道を作り出します。**長い時間をかけて多孔質な都市へと生まれ変わります。風の道はあらゆる**流れを媒介するインターフェイス**となります。大きな主体の都市計画ではなく、**小さな主体あるいは小さな敷地同士がオトナリと協力**し合って作り出す風の道によって生まれる水辺の界隈を提案します。



川に対して「ハの字型」の風の道を作ります。川をさかのぼってくる**冷たい心地よい海風**を市街地に導き入れます。平面的あるいは断面的に「ハの字型」に大きく開いた風の道からは街の新たな呼吸が生まれます。

風の道は新たに人の流れも生み出します。水辺に対するアクセスにより**親水性**を作り出すと同時に、**回遊性**も作り出します。商業施設にとっても価値を作り出します。

オトナリから広がる風の道 ~水辺に広がる界隈~

